

令和6年度 2年生 進路セミナー (瑞陵総合大学)

令和6年11月6日(水)実施

*各講座のテーマと受講した生徒の感想

1 心理学 中京大学 教授 吉住隆弘



「カウンセリングとは」

考え方は時代とともに変わり、心の内面に注目するところから相手に共感するという方向に変わってきたと知りました。

2 経済学 同志社大学 教授 八木匡



「行動経済学入門」

人間的な感情を理解した上で、現実の経済を考えていくという行動経済学を知らなかったのも、とても興味深かったです。

3 法学 中央大学 教授 北井辰弥



「法学部とはどのような学問か」

法学の世界で答えはひとつではない。そこに法学の世界の面白さを感じることができました。

4 教育学 愛知教育大学 准教授 趙卿我



「教育評価の変遷」

教育について学んでいくとき、多様な視点から物事を見て、何に重きを置くか、メリット・デメリットを意識していきたい。

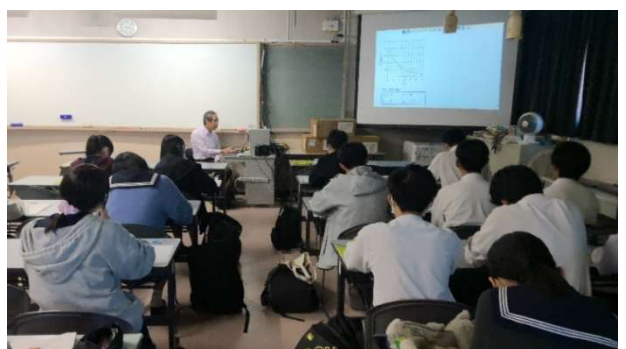
5 国際関係学 南山大学 教授 小尾美千代



「気候変動問題への対応から見る国際関係」

大学では問題発見・解決能力、批判的検討能力を養うために、「正解」があるとは限らない問いを探して学ぶと知りました。

6 薬学 名古屋市立大学 教授 湯浅博昭



「薬の体内での動きを考える」

トランスポーターというたんぱく質を介することで、特定の物質が吸収されるようになっているという話が面白かった。

7 保健学 名古屋大学 助教 立松典篤



「人を支える医療従事者(コメディカル)の魅力について」
「自分で、じゃなくて皆で協力して患者さんを見る」という言葉は、これからずっと心に留めておこうと思いました。

8 理学 名古屋市立大学 教授 河田成人



「ユークリッドからのプレゼント」
数学は不完全だから、わかっていることで、少しずつ理解しようとする。そのために証明を考えるのであると教わりました。

9 工学 岐阜大学 教授 仲井朝美



「身の回りにある複合材料の作り方を学ぼう」
作り方を知らなければデザインをすることはできない。やはり基礎の知識無くして実現不可能であることを実感しました。

10 農学 名古屋大学 教授 辻寛之



「花と実りの植物学」
フロリゲンを見つける過程で、さまざま多くの人が関わっていたのが、ロマンと人の探求への欲を感じて好きでした。

11 栄養学 椋山女学園大学 教授 大口健司



「高校生のための栄養学」
栄養学を学ぶことは自分のためにも家族のためにもなる。食べることは生きることという言葉がとても印象に残りました。

12 情報学 名古屋大学 准教授 鈴木泰博



「感性・触覚の情報学」
情報は、送り手・受け手・メディアが存在して成り立つ。地球の共通の言語が触覚だと話されたのが印象的でした。